

(別添)

名古屋大学医学部附属病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 12月 策定

【名古屋大学医学部附属病院の基本情報】

医療機関名：名古屋大学医学部附属病院

開設主体：国立大学法人名古屋大学

所在地：名古屋市昭和区鶴舞町65

許可病床数：1035床

（病床の種別）

一般病床985床 精神病床50床

（病床機能別）

高度急性期機能：985床

稼働病床数：

（病床の種別）

一般病床985床 精神病床50床

（病床機能別）

高度急性期機能：985床

診療科目：内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、老年内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、放射線科、心臓外科、血管外科、移植外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、整形外科、眼科、産婦人科、小児科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、精神科、児童精神科、脳神経外科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科、リハビリテーション科

職員数：(H29.5.1現在)

- ・ 医師：384名
- ・ 看護職員：1202名（看護助手を含む）
- ・ 専門職：354名
- ・ 事務職員：166名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

○地域の人口及び高齢化の推移

人口は県全体と同様に減少。65歳以上人口は増加し、**県全体より増加率は高い。**

＜人口の推移＞

※（ ）は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口					
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
名古屋・尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	2,248,387 (0.92)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	759,014 (1.38)	257,170 (1.00)	401,600 (1.56)	420,030 (1.63)

○地域の医療資源

病院数が多く、大学病院が2病院、救命救急センターが6か所ある。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、**医療資源が豊富。**

＜医療資源等の状況＞

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	325	137	—
人口10万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口10万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口10万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口10万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口10万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口10万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口10万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口10万対	64.6	64.6	100.0%

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	6,538	—
人口10万対	197.9	268.5	135.7%
病床100床対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事歯科医師数	5,410	2,270	—
人口10万対	72.8	93.2	128.0%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	4,065	—
人口10万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事看護師数	36,145	14,310	—
人口10万対	486.1	587.6	120.9%
病床100床対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積(k㎡)	5,169.83	368.34	—

○地域の医療需要の特徴

名古屋医療圏は入院患者の自域依存率が高い。また、他の2次医療圏や県外からの患者の**流入が多い。**

高度な医療を広域に支える役割があり、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。

名古屋医療圏は県全体と同様に**回復期機能が不足し、それ以外の機能は過剰になると推計される。**

<平成 25 年度の名古屋医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	*	1,507
		87.7%	—	—	10.2%	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	*	4,239
		88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	—	100.0%
回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	*	21	4,325	
	88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	—	0.5%	100.0%	
慢性期	2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	71	2,743	
	79.9%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	2.6%	100.0%	

<平成 25 年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地														
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	—	0.6%	2.6%	100.0%
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848
		77.0%	3.9%	2.5%	2.8%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	—	0.5%	2.9%	100.0%
回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830	
	79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	—	0.4%	2.6%	100.0%	
慢性期	2,191	80	33	130	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607	
	84.0%	3.1%	1.3%	5.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	—	0.9%	—	—	0.6%	100.0%	

- ・厚生労働省から提供された「必要病床数等推計ツール」のデータを基に作成。
- ・レセプト情報等活用の際の制約から、集計結果が10（人/日）未満となる数値は公表しないこととされており、「*」と表示している。

構想区域	区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	未報告等	計
愛知県	① 2025年必要病床数	6,907	20,613	19,480	10,773	0	57,773
	② 2015年病床機能報告	13,168	25,719	6,154	13,934	0	58,975
	差引(①-②)	▲ 6,261	▲ 5,106	13,326	▲ 3,161	0	▲ 1,202
名古屋・尾張中部	① 2025年必要病床数	2,885	8,067	7,509	3,578	0	22,039
	② 2015年病床機能報告	6,605	9,238	2,059	4,620	0	22,522
	差引(①-②)	▲ 3,720	▲ 1,171	5,450	▲ 1,042	0	▲ 483

② 構想区域の課題

- 大学病院が2 病院あり、救命救急センターも6か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。
- 人口が多く、面積も広いいため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要がある。
- 回復期機能の病床を確保する必要がある。

③ 自施設の現状

○理念

診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

○基本方針

国際的な患者安全目標を遵守し、以下を実行します。

- － 安全かつ最高水準の医療を提供します。
- － 優れた医療人を養成します。
- － 次代を担う新しい医療を開拓します。
- － 地域と社会に貢献します。

○経営管理指標

番号	項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
1	医療従事者数（人）	1,973	2,107	2,163	2,182
2	病床数（床）	1,035	1,035	1,035	1,035
3	病床稼働率（%）	85.16	84.6	87.5	84.2
4	平均在院日数（日）	14.2	13.4	12.6	12.2
5	外来患者数（人）	590,109	596,357	592,203	573,427
6	入院診療単価（円）	77,040	81,602	82,033	85,389
7	外来診療単価（円）	15,177	15,594	16,099	16,638
8	材料比率（%）	15.16	15.29	15.31	15.02
9	医薬品比率（%）	19.81	20.51	20.01	20.78
10	査定率（%）	0.58	0.58	0.88	0.81
11	後発医薬品利用率 （%, 薬価ベース）	4.65	5.36	6.95	6.65
12	紹介率（%）	54.41	55.59	57.44	65.82
13	逆紹介率（%）	41.56	48.05	51.38	53.62
14	看護必要度（%）※	15.78	17.68	21.59	30.64

※7対1病棟入院基本料施設基準値：平成25～27年度 15%以上、平成28年度 25%以上

○自施設の職員数（H29.5.1現在）

- ・ 医師：384名
- ・ 看護職員：1202名（看護助手を含む）
- ・ 専門職：354名
- ・ 事務職員：166名

○他機関との連携

「名古屋・尾張中部 地域医療連携推進協議会」を立ち上げ、高度急性期から急性期・回復期・慢性期・在宅までの医療・介護を適切かつ円滑に受けられるよう医療機関の具体的な病床機能と連携について協議、推進していくこととしている。

③ 自施設の課題

・病床機能報告では報告の様式上、100%高度急性期病床となっているが、診療密度区分別病床数（推計※）によって判別すると、実際には3分の1程度は回復期・慢性期を診ているため、高度急性期患者を集約化し、回復期・慢性期患者の転院等を図るための体制整備が必要。

なお、当院は最先端医療機能強化拠点として中央診療棟Bを新営しているため、高度急性期・急性期医療に特化した診療体制のハード面における準備は既に整っている。

※H26年厚労省DPC調査結果、厚労科研伏見班の2014年全国集計値をもとに推計。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

・地域の行政や医師会との連携を図り、少子高齢化や疾病構造の変化に対する長期的視野に立った新しい地域医療提供体制の構築に貢献する。

・今後地域で増床が必要とされる回復期病床で活躍する医療人材の育成に向けて、老年内科、整形外科等を中心にリハビリテーション・回復期部門の運用体制の整備を積極的かつ継続的に行う。

② 今後持つべき病床機能

・高度急性期・急性期機能を集約化し、回復期機能を連携病院等が担う体制の整備について検討する。なお、当院は最先端医療機能強化拠点として中央診療棟Bを新営しているため、高度急性期・急性期医療に特化した診療体制のハード面における準備は既に整っている。

・将来にわたって安定的に病床機能の提供を行うために、築後20年程度経過している既存病棟の改修について検討する。

③ その他見直すべき点

・小児・周産期医療体制の充実を図るために、小児・周産期病棟の整備を見据え、小児医療センターについて検討する。これにより、小児期から成人、老年に至るまでの生涯にわたる診療体制を目指している。

・がん、移植医療など特に特化すべき分野の組織整備を推進する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	985	→	881
急性期	0		104
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	985		985

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○小児医療センター構想の検討 ○病棟改修後の病床配置計画の検討	○自施設の今後の病床のあり方を決定	
2018年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る	
2019～2020年度	○具体的な病床整備計画を策定	○小児医療センター構想の実現	
2021～2023年度		○病棟改修の着工	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目（平成28年度→平成37年）

- ・ 病床稼働率：84.2%→90.00%
- ・ 手術件数：8,664件→11,088件
- ・ 平均在院日数：12.15日→11.12日
- ・ ICU稼働病床数：26床→54床（HCU10床含む）
- ・ 紹介率：65.82%→70.00%
- ・ 逆紹介率：53.62%→60.00%

経営に関する指標

- ・ 附属病院収益：367.0億円→414.8億円

【4. その他】

（自由記載）